

～玉川上水季節便り～

## 玉川上水ウォッチングクラブ観察日記

2019年7月27日

アキノタムラソウ、ヤブミョウガ、ミスヒキ、キンミズヒキ、オミナエシ、シモツケソウ、ワレモコウ。7月27日の観察会では残念ながらノカンゾウは見られませんでした。自生野草ゾーンの小道をふさぐ笹と草が歩く人のために刈りこまれ、ちょうど境に顔を出していたノカンゾウもすべて刈りこまれました。キツネノカミソリは竹藪の中でしたので2本残り、濃い色が緑の中で火が燃えているように見えて皆でアーと声を上げました。水車橋近くの雑木林の中にはキツネノカミソリの群生があります。玉川上水しんぶん10号にソクズが草のために刈られて残念な思いをしたことを書きましたが、今年もアジサイと共に姿を消してしまいました。私たちの一言が足らなかったと反省しました。



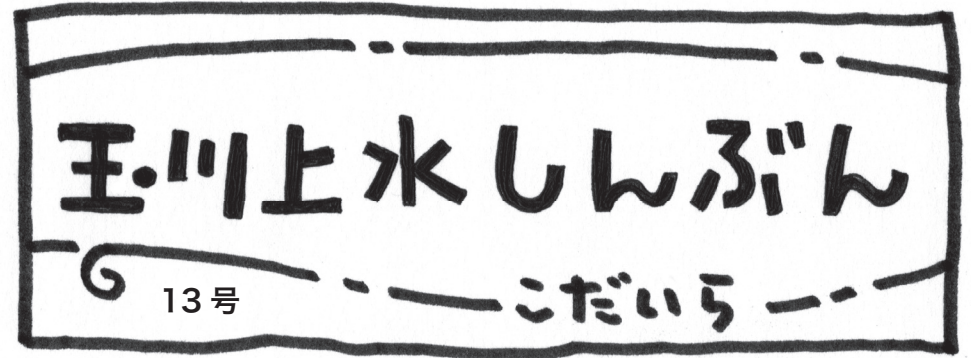
キツネノカミソリ

### 署名活動+ミニ観察会 @小平中央公園南西入口(禿橋)

10月6日(日)、11月3日(日)、  
12月1日(日)

- ・10:00-10:30 玉川上水保全署名  
雨天中止
- ・10:30-12:00 頃 ミニ観察会  
案内：宮元伸也さん 雨天中止  
問合せ：090-8341-9170 (水口)

\*玉川上水しんぶんメール配信  
申込は以下へお願いいたします。  
midoritsunagari@gmail.com



発行日：2019年9月1日

題字：石渡希和子

発行人：みどりのつながり市民会議 <https://midoritsunagari.wordpress.com/>

問合せ先：電話 042-341-3991 メール midoritsunagari@gmail.com

## 新堀用水で見たホタル

去年、小川用水の脇の林でホタルを一匹確認し、感激しました。驚いたことに、タヌキ堀抗口のあたりにも、数匹いました。まさか新堀用水にいるとは思ってもみないことでした。1970年代に汚染され、もうホタルはいないものと思っていました。

今年6月半ば、タヌキ堀抗口より下流の新堀用水を探してみたら、いました、いました！すぐに仲間に伝えたところ、彼女らも探しにいぎ、見つけたようでした。去年見つけたタヌキ堀のあたりは、改修工事で埋め立てられてしまったし、今年はホタルに会えないかと思っていました。

ただし、関西型ホタルの光り方をしています。ホタルの復活事業では、遺伝子の問題があるようですが、ホタルが自生する環境が戻ってきたことのは嬉しいことです。(リー)

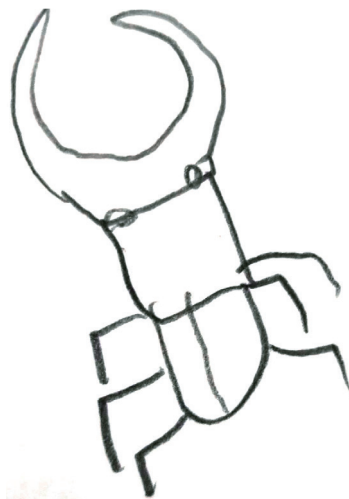


# 玉川上水ナイトウォーク

7月末日、小平自由遊びの会が主催するキャンプに参加しました。場所は、きつねっぱらキャンプ場。虫が大好きな息子は、夜に行われる玉川上水ナイトウォークを楽しみにしていました。

先導してくれたのは、リー智子さん。ナイトウォークは、クイズで玉川上水の基礎知識をつけてから、出発しました。きつねっぱら公園から上水に入り、東へ、暗闇の中を進んでいきます。子どもたちは、ライトを手に持ち、頭に付け、どんどん進みます。通りにある木は、くまなく照らし、虫を探します。あまりにも、虫探しに熱中すぎて、皆から遅れをとる息子。なかなか、お目当てのクワガタムシに会えませんでした。寺橋で、一行と合流し、橋を渡って折り返します。すると、いきなり大量捕獲。車道側には沢山の虫がいました。結果、ノコギリクワガタ 2 匹、コクワガタ 1 匹を手に入れて、ご満悦で帰宅することが出来ました。

毎日、虫と戯れながら、お世話をする息子の様子を見て、近くに玉川上水があって、本当によかったなと思いました。8月は自主ナイトウォークを何度も行い、秋には行ったことの無いところまで進む、上水沿いサイクリングに挑戦する予定です。玉川上水が、探求し、挑戦する場所として、子どもの成長を支えてくれています。(上野)



白梅幼稚園での壁画制作ワークショップ

# 玉川上水いきものたちの通り道

企画：リー智子

2019年2月に白梅幼稚園の年中さん 60 名に玉川上水を知ってもらうためのワークショップを行いました。玉川上水の歴史といきものつながりについてお話し、玉川上水の3種のどんぐりの葉っぱと実を当てるゲームをしました。

例えば、カブトムシは落ち葉に卵を生みますが、どの葉っぱでもいいというわけではなくて、特にクヌギが好きだし、クヌギシギゾウムシというどんぐり虫は、特にクヌギのどんぐりが好き。クヌギの木一本をめぐる様々ないきもの、人とのつながりをお話しました。

それから、クレヨンを使って水路がずっとどこまでもつながっている様子をみんなで描いていきました。子どもたちはとても集中して、大きな玉川上水の絵ができあがりました。その絵を鷹の台駅の地下道に壁画として掲示しました。いつもお母さんと一緒に通っている玉川上水が、少しでも身近な存在になってくれることを願っています。

